

(3) 2017年(平成29年)1月13日(金曜日)

効果の出るIT活用術

ユーザックシステム
「名人」シリーズ導入事例 ⑤

日本製粉



佐藤彰夫日本製粉システムセンター取締役システム部長



土屋理希日本製粉システムセンターシステム部システム課員

日本製粉は「Autoブラウザ名人」と「Autoメール名人」を活用し、煩雑な処理が必要だったWeb E

DIでの受注業務と、Eメールでのデータ交換業務の完全自動化を達成している。「We bEDIをEDIと同じで処理する」(佐藤彰

夫日本製粉システムセンター取締役システム部長)ことが可能になり、手作業による処理を大幅削減。社内全体での業務効率化を実現

煩雑な処理を自動化

業務全体の効率化実現

している。

同社の受注ルートは

EDI、WebEDI、FAXの三つがあつた

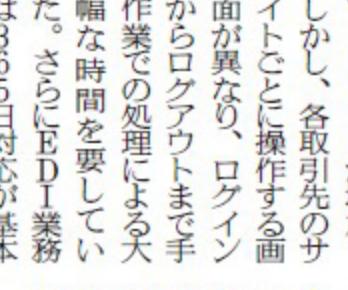
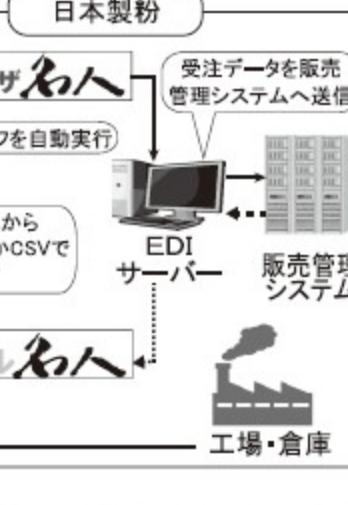
が、2000年代以降外食チェーンを中心にWebEDIが増加。

しかし、各取引先のサ

イトごとに操作する画

面が異なり、ログインからログアウトまで手作業での処理による大幅な時間を要してい

た。さらにEDI業務は365日対応が基本



からログアウトまで手作業での処理による大幅な時間を要してい

た。さらにEDI業務は365日対応が基本

で、そのための人員投入も必要となり、「省力化といながらも省力化ができるいない状況」(佐藤取締役)にあつた。

そこで、05年にスマ

ンドアロン式でブラウ

ザ操作を自動化する機

I受信名人)を導入。

「Autoメ

ル名人」は、10年

間で開発も容易

(土屋

理希システム部シス

テム課員)だ。

また、「Autoメ

ル名人」は、10年

間で開発も容易

(土屋

理